

教職員に求められる人権感覚

(所要時間 20～40分)

1 研修のポイント

- ・ 児童・生徒一人一人を大切にしていることについての意見交換等を通して、自己の人権感覚を確認することができます。
- ・ 本研修セットを全て行う場合は、約40分の研修となりますが、短縮して約20分の研修とすることができ、学校の実態に合わせて本研修セットを活用することができます。

2 使用する資料

- ・ 【研修の進め方】教職員に求められる人権感覚
- ・ 【参考資料1, 2】人権感覚 教職員のチェックポイント

3 研修概要

(1) 本研修セットを全て行う場合

分	研 修 内 容
(10)	○ 各自で演習資料に取り組む。
(20)	○ 配慮して取り組んでいることや課題と感じていることについて意見交換をする。
(5)	○ 研修担当者が説明する。
(5)	○ 感想を交流し、活動を振り返る。

(2) 本研修セットを短縮して行う場合

分	研 修 内 容
(7)	○ 各自で演習資料に取り組む。(項目を学校の実態に合わせて選択しておく。)
(8)	○ 配慮して取り組んでいることや課題と感じていることについて意見交換をする。
(5)	○ 研修担当者が説明する。

【研修の進め方】

教職員に求められる人権感覚

1 研修の流れ () は短縮して行う場合の時間の目安

分	研修内容	留意点等
2	○ 研修担当者が説明する。	<ul style="list-style-type: none"> 研修の目的・必要性を伝える。 以下に示されている「2 説明内容(例)」※1を参考とすることができる。
8 (7)	○ 各自で演習資料に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 「人権感覚 教職員のチェックポイント」【参考資料1, 2】を活用して項目をチェックするとともに「配慮して取り組んでいることや課題と感じていること」について記述するようにする。
20 (8)	○ 配慮して取り組んでいることや課題と感じていることについて意見交換をする。	<ul style="list-style-type: none"> 3～4人のグループで「配慮して取り組んでいることや課題と感じていること」について意見交換ができるようにする。 研修担当者はグループを巡回し、校内で共有したい内容を把握する。
5 (5)	○ 研修担当者が説明する。	<ul style="list-style-type: none"> 校内で共有したい内容を紹介するとともに「2 説明内容(例)」※2を活用して大切なポイントを確認する。
5	○ 感想を交流し、活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 校内で人権感覚を磨き合っていくことが大切であることを確認する。

2 説明内容（例）

- ※1 教職員は、子供たちの健やかな成長のため、支援するという重要な役割を担っています。そのため、教職員は、自らの言動が、子供たちの人権を侵害することにならないように、常に意識する必要があります。本日は、教職員に求められる人権感覚について、確認していきましょう。

人権感覚とは、日常生活の中で人権上問題のあるような出来事に接した際に、直感的にその出来事はおかしいと思う感性や、日常生活において人権への配慮が態度や行動に現れるような感覚ということができます。

教職員は、幼児・児童・生徒に直接関わり、指導することでその心身の成長発達を促進し支援するという役割を担っています。したがって、幼児・児童・生徒一人一人の大切さを強く自覚して、指導することが重要です。教職員は、自らの言動が幼児・児童・生徒の人権を侵害することにならないよう常に意識をしていなければなりません。

日々の授業、学級経営等においては、幼児・児童・生徒に対する適切な配慮を行うことが必要です。一人一人を大切にするために、「教師と子供との関わり」、「教室環境」、「学校が発行する文書等」、「個人情報の管理」の観点から人権感覚を確認してみましょう。

- ※2 教職員に求められる人権感覚として、大切なポイントを3点確認します。

1 教職員が人権尊重の理念を十分に理解すること

教職員が人権尊重の理念を十分に理解することが大切です。人権尊重の理念とは「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」であり、全ての教育活動の基盤となるものです。

また、東京都人権施策推進指針に示された人権課題について、正しい理解と認識を深めることが大切です。

2 教職員が一人一人の幼児・児童・生徒の人権を尊重すること

幼児・児童・生徒が、自らの大切さが認められていることを実感できるような環境づくりに努めることが大切です。教職員は、人権が尊重される学級・学校づくりを心掛け、日頃の関わりの中かで、一人一人の大切さを強く自覚して、指導する必要があります。幼児・児童・生徒自身が「自分は大切にされている」という気持ちをもつことが幼児・児童・生徒の成長につながります。

3 学校の教育活動を常に検証すること

日々の教育活動を、「幼児・児童・生徒の人権を大切にしているか」という観点から、常に振り返ってみるのが大切です。これまで、慣例的にしていた活動や指導方法についても、あらゆる立場から見直し、幼児・児童・生徒一人一人を大切にしていた教育活動が行われているかを点検することが重要です。

また、学校便りや研究紀要などにも、事前に表現等が人権に配慮したものとなっているか、掲載する写真等の許諾をとっているかなど、十分に確認する必要があります。

3 その他

本研修セットの一部を行う場合は、演習資料に取り組む時間や意見交換の時間等を短縮することで、20分程度で研修を行うことができます。

【参考資料 1】

人権感覚 教職員のチェックポイント

教師と子供との関わり

的確な幼児・児童・生徒理解に基づき、一人一人を大切にされた指導を行っているか

チェック欄	項目
	登降園、登下校時に、幼児・児童・生徒に率先して言葉を掛け、温かく送り迎えをしているか
	朝の会等で、幼児・児童・生徒の心身の健康状況を丁寧に把握しているか
	幼児・児童・生徒が、互いの意見や作品等のよさを認め合うことができるような具体的な取組を行っているか
	幼児・児童・生徒のいじめ等による変化を見逃さず、学年や学校全体で情報を共有できるよう報告等をしているか
	幼児・児童・生徒に対し、一方的な思い込みや偏った見方、いわゆる固定的な性別役割分担意識等ではなく、確かな事実や根拠を基に指導しているか
	欠席した幼児・児童・生徒に対し、学校からの連絡内容が確実に伝わるよう配慮しているか
	学習で使用する教具や設備を誰もが公平に使えるように配慮しているか
	体罰や不適切な行為を未然に防止するために、日常の指導の在り方について相互に点検を行っているか
	幼児・児童・生徒に対してセクシュアル・ハラスメント等を起こさないように、研修内容に基づいて自己点検を行っているか
	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒に対し、その特性を適切に理解するとともに、できること・得意なことを伸ばす指導を心掛けるなど、成功体験を増やし自己肯定感を高めていけるようにしているか
	幼児・児童・生徒の保護者との応対の際には、その心情に配慮し共感的な態度で接しているか
※ 配慮して取り組んでいることや課題と感じていることを記述してみましょう	

教室環境

一人一人の幼児・児童・生徒を大切にするという観点で、掲示物や物品等の教室環境を整えているか

チェック欄	項目
	幼児・児童・生徒の作品に誤字・脱字があった場合、修正をさせてから掲示しているか
	教室や廊下の黒板や壁などに、落書き等がないよう気を付けているか
	著作物を複製する場合には、著作権法第 35 条で認められている限度を超えていないか
※ 配慮して取り組んでいることや課題と感じていることを記述してみましょう	

【参考資料2】

人権感覚 教職員のチェックポイント

学校が発行する文書等

様々な立場の方が読んだり見たりすることを想定して作成しているか

チェック欄	項 目
	文書等を作成する際には、それを読む人の立場に立ち、意図が誤解なく伝わる表現になるように努めているか
	文書等に誤字・脱字や不適切な表現がないか、複数で点検してから発行しているか
※配慮して取り組んでいることや課題と感じていることを記述してみましょう	

個人情報の管理

個人情報の収集や取扱いを、規則に基づき徹底しているか

チェック欄	項 目
	私物の記憶媒体を持ち込んだり、個人情報を含む資料や電子ファイルを管理職の許可を得ずに持ち出したりしていないか
	名簿、成績の記録等は、机の上に置いたままにせず、鍵のかかる引き出しに入れるなど、保管に十分配慮しているか
	個人情報に関わる文書や調査等を配布・回収する際は、封筒に入れて相手に確実に手渡すなど十分配慮しているか
	健康カードや答案用紙等を担当が担任等に渡す際に、机の上に置いたままにせず確実に手渡ししているか
※配慮して取り組んでいることや課題と感じていることを記述してみましょう	